

『ハーブ媛ひらめ』に代表される養殖進出のパイオニア

● 訪問企業の概要

運営建設企業：井上建設株式会社

所在地：西予市（南予）

資本金：21 百万円

業 種：土木工事業

従業員：6 名



(1) 進出した新分野の事業内容、時期

- ・ 水産分野（ヒラメの陸上養殖）（昭和 56 年 4 月～）
- ・ 水産分野（鯛・スズキ・シマアジの海面養殖）（昭和 58 年頃～）

(2) その分野を選定したきっかけ・理由

- ・ 養殖が盛んな地域であるが、海面養殖は異業種からの参入が漁業者等との関係上難しかったため、比較的参入しやすく陸上養殖ができるヒラメに着目し、先々代が事業を開始した。

(3) 事業・技術・製品の特長

- ・ ハーブをブレンドした専用飼料で育てることで、健康に育ち、臭いを抑え風味良く引き締まった良質の「ハーブ媛ひらめ」は、えひめ愛フード推進機構の「愛」あるブランドにリーディングブランドとして認定されており、安全・安心のもと、優れた品質を持っていると認められている。
- ・ また「ハーブ媛ひらめ」については、井上建設㈱をはじめとする7社で構成される「三瓶ヒラメ養殖協議会」のメンバーが協力して生産することで、年間を通じた安定供給を可能としている。

(4) 進出時の体制

(進出から相当の期間が経過しており詳細不明)

(5) 事業の経過

- ・ 陸上養殖は、土木の工事量が減る時期に毎年少しずつ設備投資を実施していったが、その後徐々に設備の絞り込みを実施。現在稼働中の水槽は37基である。
- ・ 陸上養殖を始め、漁業者等とも徐々に関係を構築した後、海面養殖に参入した。参入当初、筏等設備は賃借していたが、10年ほどした後自らの設備での養殖を開始した。
- ・ 平成18年頃に関係会社(愛媛養殖㈱)を設立し、海面養殖事業は同社に移管していった。

(6) 苦労した事柄、解決策

- ・ ヒラメの陸上養殖は西日本では井上建設㈱が先行していたため、ノウハウを学ぶ先が全くなかった。伝手のあった水産学部の大学生の指導を受けながら、試行錯誤を繰り返し、生育が軌道に乗るまで3~4年を費やした。
- ・ 民間金融機関にとって養殖業の事業性審査は難しい上に、水産養殖事業は信用保証協会の保証対象外事業であることから、銀行借入は難しく、また、水産業に関する助成制度も極めて少なく、資金調達には苦慮した。

(7) 新分野従事者の属性

- ・ 専従従業員数7名(ヒラメ2名、鯛・スズキ・シマアジ5名)

(8) 愛媛県建設産業経営革新等助成事業以外に活用した公的助成制度

- ・ 特になし

(9) 現在の売上、今後の見通し

- ・ 陸上養殖の売上高は概ね 30 百万円前後。追加の設備投資は、電気設備を含めまとまった資金が必要となることから、設備投資は当面は様子を見る方針。
- ・ 養殖協議会で加工を行い、6次産業化することを計画しており、これにも力を入れて行きたいと考えている。
- ・ 海面養殖の売上高は現在 200 百万円程度。

